



市電電停と直結したJR新水前寺駅。雨天でも濡れずに乗り換えができる利便性で、利用客が増加している

とに分かれています。JR水前寺駅は、近くに熊本学園大学や熊本高校、開新高校があることから、通学に利用する若い世代の往来が多い駅です。JR新水前寺駅は、平成22年に熊本市電「新水前寺駅前電停」と直結させるため、ホームを移動・通勤・通学や買い物への移動手段としてより利便性が増しました。

水前寺成趣園を経て、江津湖に流れこむ藻器堀（しょうけぼり）川は校区の自慢の一つ。川底まで見通せるほどの清流には、アユをはじめとする多くの淡水魚が確認されています。近くに住む出水校区自治協議会の吉田健会長は「昔の藻器堀川には洗い場があって、朝から近所の人たちが井戸端会議をしながら洗濯をしていました」と話します。しかし時代は流れ、身近なスパーがなくなるなどまち並みも変化。買い物に不自由な高齢者も増えてきました。そこで、高齢者が多い団地への、移動販売車の巡回などを誘致。マンショ

駅の賑わいと藻器堀川の清流が同居するまち

出水 校区は、東側を水をJR新水前寺駅から水前寺駅の区間に囲まれ、県道28号（通称「電車通り」）で北側の水前寺地区と南側の出水・国府地区

ンの高層階に住む方にはボランティアが荷物を運ぶなど、住民みんなで校区の人たちの暮らしを守る取り組みが続けられています。

子どもネットワークで「お母さんたちのまちづくり」昔から 「環境がよくて便利なまち」として知られ、住宅地として人気があった出水校区は、近年、高層マンションが増え、住人の世帯構成も変化してきました。独身層や若い家族の姿が増え、高齢世代、若い世代共に安心・安全に暮らせる、住みよく、活力のあるまちとなるためには、なにが必要なのか、知恵を出しあつてのまちづくり活動が進んでいます。



澄んだ水の流れに驚く人も多い藻器堀川。地域の人々が熱心に清掃をしている



集い、楽しむことで、賑わいあふれる地域へ



校区の歴史や宝をみんなで話し合う、カルタづくりワークショップ